

Rotary



宮崎南週報



ロータリー：
変化をもたらす

イアンH.S.ライズリー
2017-18年度RI会長

南の風、みんなで参加。

宮崎南ロータリークラブ
会長 戸高 勝利

第1932回例会

2017.9.4

会長／戸高勝利 幹事／入佐秀幸
副会長／日高勇二 会報／島田博良
例会場／宮崎観光ホテル
ソング／君が代 四つのテスト
ロータリーの目的

会長挨拶

戸高勝利会長



皆さんこんにちは。本日は「れな」についてお話しします。

「れな」は小林にあります小林秀峰高校の生徒が育てている14~17ヶ月未満の若雌(2区)ですが、すごい事をしてくれました。5年に一度行われる和牛改良の成果を競う大会「全国和牛能力共進会(全共)」に出場する県代表に高校生としては初めて選ばれ、9月3日に大会県である宮城(陸路1,500km)へ向かいました。小林秀峰高校の男女生徒は「支えてくれた周りの農家や地域の方々に報いるため、全国一を目指し頑張る」と毎日牛と向かい続けています。口蹄疫後の種牛から生まれた牛だけに「真の復興が試される」大会です。開幕までもうすぐ、前人未到の3連覇に県民一丸となって応援したいと思います。本命視されながらも、牛が興奮し県予選で惜しくも選考に漏れた清武町のMさんは、出場した農家の代表は必ず好成績を持って帰るに違いないとエールを送っていました。目指せV3!

幹事報告

入佐秀幸幹事



・今月のロータリーレートは1ドル109円となっております。

親睦委員会報告

田中靖彦委員



・9月25日(月)は観月会です。アトラクションでベリーダンスをお願いしておりますので、お楽しみにしておいてください。
・9月24日(日)宮崎南ロータリーゴルフを開催しますのでこちらも参加をよろしくお願ひいたします。

Rotary



ロータリー情報

●会員増強の意義 (Significance of Membership Development)

- 毎年会員の自然減が5~10%とみられる。このためにも毎年新しい会員の補充が必要。
- 組織を生き生きとさせるためには、常に新しい血の導入が必要。
- クラブ活性化のため、老、壮、青のバランスを保ち、若返りが必要。
- 会員増強と拡大は、毎年RI会長の最重要課題となっている。

出席委員会報告

長澤好太郎委員長

●出席状況

本日状況	
会員数	(43) 46名
本日欠席者数	7名
本日出席者数	39名
出席率	90.70%

前々回状況	
会員数	(44) 47名
ホームクラブ出席者数	31名
メークアップ数	4名
修正出席者数	35名
修正出席率	79.55%

●前々回メークアップされた方／入佐秀幸会員、大田寛子会員、日高勇二会員、星野敬人会員

ニコニコ BOX 1件 3,000円
累計 49,000円

募金箱 5,830円
累計 45,641円

ニコニコBOX



島田博良会員

(株)島電工の50周年祝賀会を9月3日に行いました。

ロータリーフラッシュ

●誕生日

松下美佐子会員

井野元孝洋会員

田口幸登会員



●2016~17年度

大迫三郎会員

日高章智会員

入佐秀幸会員

井上竜志会員

開地俊昭会員

早瀬清則会員

合計10名



●米山奨学金授与

ミヤティン

チュチュウ様



国際奉仕委員会



大田寛子委員長

昨日、都城で行われた補助金管理セミナーに行ってまいりました。当クラブも補助金申請の条件を満たしておりますので、来年度補助金を蓮田RCと打合せして申請を行いたいと思います。募集締め切りは12月末と2月末がありますが、総額700万円を超えた場合、2月の募集は行われません。2730地区からは65クラブ、セミナーに参加しておりましたので、12月末の締め切りに間に合わせたいと思いますが、多くの資料提出が必要となりますので、皆さまのご協力をお願いいたします。

青少年奉仕委員会



矢野智哉委員長

本年度青少年奉仕委員長の矢野です。青少年奉仕についてお話をさせていただきます。

各ロータリアンの責務は、年齢30歳までの若い人すべてを含む青少年の多様なニーズを認識しつつ、未来のロータリアン候補でもある地域の青少年の生活力を高めることによって、青少年に将来への準備をさせることです。

すべてのクラブと地区は、青少年の基本的ニーズを支援するプロジェクトに着手するよう奨励されています。

基本的ニーズとは、健康、人間の価値、教育、自己開発あります。

青少年奉仕プログラムにはインターラクト、ロータリアクト、ロータリー青少年指導者養成プログラム、ロータリー青少年交換があります。

多数の青少年が、将来リーダーとなるために必要なスキルを身につけようと、ロータリーのプログラムに参加しています。

RYLA

ロータリー青少年指導者養成プログラム（ライラ）は、ロータリーが実施する若者たちのための研修プログラムです。

ライラの対象となるのは年齢12～30歳の青少年です。キャンプやワークショップなどを短期集中で行います。

インターラクト（Interact）

インターラクトは、12歳から18歳までの青少年のための国際ロータリーの奉仕クラブです。

インターラクト・クラブは、支援や指導を与えるロータリー・クラブが提唱して結成されますが、運営面でも経済的にも自立しています。

クラブ会員の構成はさまざまです。男子のみ、女子のみのクラブもあれば、男女混合からなるクラブもあり、その規模も大小さまざまです。

会員基盤は1つの学校の学生から集められる場合もあれば、同じ地域社会内の2つ以上の学校から成る場合もあります。

ロータリアクトは、18歳から30歳までの青年男女のための、ロータリーが提唱する奉仕クラブです。

ロータリアクト・クラブは通常、地域社会または大学を基盤としており、地区のロータリー・クラブが提唱しています。

青少年交換

2730地区では主にロータリアンまたはその周辺の

子弟を国同士で交換留学させて、世界平和の実現と将来のロータリアンを育てる目的で実施しています。本年度はカナダ・ポーランド・フィンランドと鹿児島・国分・都城が交換留学しています。

私の会社では運動教室やかけっこ教室などで子どもと関わっていますが、体力面での両極化や少子化で年代の違う子どもたちの交流が少なくなっていると感じます。ですが機会を設けてあげると1時間の間でも成長が見て取れることもあります。

宮崎南ロータリークラブでは少年サッカー大会で活動しています。ご好評いただいているこの大会は継続しながらも地域の子どもたちの問題にフォーカスした活動もできるように来年度以降も青少年奉仕委員の方と協力したいと思います。

今日のプログラム

会員卓話

太陽光発電システムの歴史 蟹原 学会員



1954年にアメリカのベル電話研究所のピアソン、フラー、シャピン、という3人の研究者によって発見されました。

この時に発明された太陽電池はシリコン太陽電池と呼ばれるものでした。このシリコン太陽電池はトランジスタ研究課程において偶然にできた副産物のように発明されたというエピソードがあります。

1959年に日本国内でシャープが太陽電池の研究を開始し翌年の1960年には太陽電池付きトランジスタラジオの試作に入り1962年には発売に至っております。

1973年には第4次中東戦争によって第1次石油危機が日本経済を直撃しました。しかしこれは結果として国家レベルで太陽光エネルギーに目を向けさせる契機となり、エネルギー源の多様化の推進と石油に代わるクリーンな国産エネルギーの開発を意味する「サンシャイン計画」への創設へつながっていきことになりました。

1993年に太陽光発電の実用化を促進するとともに、接続可能な成長の基盤となるエネルギー問題の解決を目指す「ニューサンシャイン計画」がスタートします。

1997年には気候変動枠組条約COP3が京都で開催され、先進国に対して温室効果ガスの削減が義務づけされる。いわゆる京都議定書がきめられたのです。この年累計導入量でアメリカを上回っております。

1999年にはついに年間生産量でアメリカを抜いて世界1位となりました。

2009年から始まった売電制度によってかなり高く売電する事ができるようになり「太陽光発電を設置すると金銭メリットがある」という状況に一転します。（1kw48円）

2011年には東日本大震災を経験し太陽光発電の持つ自家発電の価値が改めて認識されるようになります。また、原発事故の影響で日本全国で原子力発電が停止され、再生可能エネルギーの重要性が認識されます。

2012年には、10kW以上の太陽光発電システムは全ての電力を買い取る全量買い取り制度も始まり、一気に認知度が上がります。